

事務連絡
令和 6 年 9 月 18 日

各都道府県・政令市
水質保全担当部（局）長 殿

環境省水・大気環境局 環境管理課

河川（国指定水域）における類型指定の見直し方針について

河川における類型指定見直しについては、「水質汚濁に係る環境基準水域類型指定の考え方及び見直し方針」（中央環境審議会水環境部会陸域環境基準専門委員会（第10回）（平成22年5月14日）資料3-2-2において、国指定の河川に関する整理を行っているが、水質汚濁に係る環境基準として大腸菌数が位置づけられたことから、大腸菌数の取扱い等について下記の通り整理を行ったためお知らせする。

記

- ・ 生活環境の保全に関する環境基準におけるBOD以外の項目（大腸菌数含む）についての取扱いは従来通りとするものとし、BODの測定値を基本に検討し、その他の項目については必要に応じて考慮して進める。なお、大腸菌数については、その他項目として大腸菌群数に代わる1項目として取り扱う。
- ・ 上位類型への見直しにあたっては、水域の利用状況や関係機関へのヒアリング等による地域ニーズの把握等を考慮した上で検討を行うものとする。

【参考】中央環境審議会水環境部会陸域環境基準専門委員会（第10回）（平成22年5月14日）

資料3-2 水質汚濁に係る環境基準水域類型指定の考え方及び見直し方針（案）
（抄）

2. 今回の水域の類型指定の見直し方針（案）

（1）河川の見直しの方針

1）見直しを検討する水域

上位類型の基準を満足している水域

2）見直しの考え方（前回見直しの際の考え方を引用）

上位類型の基準を満足していることの判断は以下のとおりとする

- ①原則として5年間以上安定して上位類型の基準を満足しているB類型以下の水域。
- ②原則として10年以上安定してAA類型を満足しているA類型の水域。
- ③水域類型の見直しにあたっては、BODの測定値を基本に検討し、その他の項目については必要に応じて考慮して進めるものとする。
- ④湖沼と併せて水系単位で見直しを検討し、水系内での検討を進める。